教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 健康・スポーツ科学科　　資格： 教授　　氏名： 田中　美吏

研究分野	研究内容のキーワード
スポーツ心理学、運動の制御と学習、知覚・認知心理学	プレッシャー、あがり、ストレス、知覚、リスク志向・回避、思考、意思決定、注意、情動・感情、スランプ、イップス、中枢神経活動、自律神経活動、筋活動、キネマティクス、姿勢制御、メンタルトレーニング
学位	最終学歴
博士（学術）	広島大学大学院生物圏科学研究科　博士課程後期修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.FD委員会による授業のインターネット上での公開（mwu.jp）	2017年2月～現在	健康・スポーツ科学科「スポーツ心理学Ⅱ」の授業がFD委員会による推奨公開授業に選ばれた。第8回と第9回の授業がmwu.jpにて動画公開されている。
2 作成した教科書、教材		
1.スポーツ版楽観・悲観バイアス計測ソフト	2018年8月～現在	スポーツに関わるポジティブワードとネガティブワード（例えば、勝と負）を刺激として呈示し、それらに対する反応の正確性や時間を計測することで、楽観もしくは悲観のどちらの刺激に対する認知バイアスが強いかを計測できるPCソフトを作成した。健康・スポーツ科学科や健康・スポーツ科学研究科のスポーツ心理学関連の授業や、卒業研究、修士論文にて活用する。
2.ダーツ課題によるリスク志向とリスク回避の計測ソフト	2017年11月～現在	ダーツ課題を複数試行行うことで、狙準（エイミング）スキルの変動性を測定し、リスクを伴う課題を行う際に、その変動性から最適運動を行うための最適解を算出するPCソフトを作成した。その最適解からの誤差を求めることで、運動行動におけるリスク志向とリスク回避の度合いを測定する。健康・スポーツ科学研究科「身体運動評価学実験」等の授業で活用している。
3.ダーツ課題によるエイミングスキルの正確性の計測装置	2016年6月～現在	パワーポイントで作成した任意の的（ターゲット）をプロジェクターでボードに投影し、そのボードに投じられた矢（ダーツ）をビデオ撮影する。その映像に映された的と矢をPCソフトを用いて座標換算し、狙準（エイミング）スキルの正確性を絶対誤差、恒常誤差、変動誤差から評価できる装置・ソフト一式を作成した。健康・スポーツ科学科「スポーツ心理学実験」、健康・スポーツ科学研究科「身体運動評価学演習」等の授業で活用している。
4.一歩踏み出し反応時間・運動時間計測装置	～現在	フットスイッチ、スピーカー、AD変換器を用いて、警告刺激と反応刺激の時間を可変し、一歩踏み出し運動における反応時間と運動時間を計測できる装置を作成した。健康・スポーツ科学科「スポーツ心理学実験」、健康・スポーツ科学研究科「身体運動評価学演習」等の授業や卒業研究で活用している。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.放送大学福井学習センター公開セミナーの講師	2014年8月	放送大学福井学習センター公開セミナー（福井大学地域貢献推進センター共催）の講師。タイトル「スポーツ選手が抱える諸問題に対する心理学的アプローチ」。
2.福井大学公開講座の講師	2013年8月	平成25年度福井大学公開講座「福井大学発　最先端研究～明日への挑戦～Part1」の講師。テーマ「スポーツと心理的プレッシャーに関する研究の最新の動向」。
3.帝塚山大学公開講座のシンポジスト	2012年2月	帝塚山大学人間環境科学研究所公開講座「実験という手法の異分野交流」のシンポジスト。タイトル「ヒトの運動制御機能に対する心の影響の実験」。
4 その他		
1.学友会少林寺拳法部の部長	2018年4月～現在	学友会少林寺拳法部の部長を務めている。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
2.大学院生の論文指導（指導教員として）	2017年4月～現在	健康・スポーツ科学研究科修士課程。稲田愛子氏「ソフトボール選手におけるイップスの実態把握と診断検査作成」（2019年3月修了）。西分友貴子氏「カヌースプリントにおけるスタート時の反応時間：簡易自動発艇装置を用いたトレーニング効果の検討」、三森裕希子氏「競技歴とプレッシャーが野球バッティングの意思決定と動作にどのような影響を与えるのか？」（2021年3月修了）、茶屋怜治氏「大学生競泳選手のピリオダイゼーションに伴うストレスとパフォーマンスの関係」（2022年3月修了）、細野桃子氏（2024年3月修了予定）、西村久美子氏（2025年3月修了予定）、福田千尋氏。
3.健康・スポーツ科学科の担任業務	2015年4月～現在	2015年度1年Dクラス、2016年度2年Dクラス、2017年度3年Bクラス、2018年度4年Bクラス、2019年度3年Bクラス、2020年度4年Bクラス、2021年度1年Bクラス、2022年度2年Bクラス、2023年度1年Dクラス
4.高校での模擬授業の講師	2012年11月	仁愛女子高校（福井）。テーマ「メンタルトレーニング」。
5.高校での模擬授業の講師	2011年3月	串本古座高校古座校舎（和歌山）「大学の先生の授業を受けよう！」。テーマ「メンタルトレーニング（集中力）」。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.スポーツメンタルトレーニング上級指導士	2017年4月1日～現在	日本スポーツ心理学会認定
2.スポーツメンタルトレーニング指導士	2007年4月1日～2017年3月31日	日本スポーツ心理学会認定
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.スポーツメンタルトレーニング指導士関西地区研修会の事例提供者	2011年8月	23年度第4回スポーツメンタルトレーニング指導士関西地区研修会。テーマ「大会直前におけるメンタルトレーニング講習の効果」。
4 その他		
1.武庫川女子大学の研究推進センター委員	2024年4月1日～現在	武庫川女子大学の研究推進センター委員を務めている。
2.武庫川女子大学の教務委員	2022年4月～現在	武庫川女子大学の教務委員（健康・スポーツ科学科）を務めている。
3.京都大学大学院教育学研究科の授業でのゲスト講師	2022年1月21日	テーマ「プレッシャーとイップスに関する運動制御研究」。
4.武庫川女子大学の研究推進委員	2021年12月～2023年3月	武庫川女子大学の研究推進委員会の委員を務めた。
5.武庫川女子大学の研究開発支援課専門員	2019年4月～現在	武庫川女子大学の研究開発支援課専門員を務めている。
6.大阪大学AllRound運動制御学セミナーでの話題提供	2018年9月	テーマ「プレッシャーとイップスに関する運動制御研究」。
7.武庫川女子大学健康・スポーツ科学部のスノースポーツ実習長	2018年4月～2022年3月	武庫川女子大学健康・スポーツ科学部のスノースポーツ実習長を務めた。2019年度から2022年度にかけては3実習長のリーダーも務めた。
8.一般社団法人アスリートケアの講習会の講師	2018年4月	テーマ「心理的プレッシャーとスポーツパフォーマンスーメカニズムと予防・対処ー」。
9.日本スポーツメンタルトレーニング指導士会関西支部研修会の分科会講師	2017年10月	2017年度日本スポーツメンタルトレーニング指導士会第12回関西支部研修会。テーマ「運動の制御と学習からのアプローチ：理論と実践」。
10.武庫川女子大学の大型機器管理運営協議会の委員	2017年9月～2019年3月	大型機器管理運営協議会委員（健康・スポーツ科学部）、大型機器の共同利用に関するワーキンググループ委員（健康・スポーツ科学部）を務めた。
11.清恵会第二医療専門学院実習指導者会議研修会の講師	2016年4月	清恵会第二医療専門学院実習指導者会議の研修会。テーマ「臨床実習指導における心理的サポートースポーツ心理学の応用ー」。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
12.スポーツメンタルトレーニングフォーラム・イン・関西の分科会講師	2015年10月	第10回スポーツメンタルトレーニングフォーラム・イン・関西。テーマ「運動の制御と学習からのアプローチ：理論と実践」。
13.武庫川女子大学の学校教育センター委員	2015年4月～2017年3月	武庫川女子大学の学校教育センター委員（健康・スポーツ科学部）を務めた。
14.（財）メンタルケア協会メンタルケア・スペシャリスト養成講座の講師	2014年11月	（財）メンタルケア協会メンタルケア・スペシャリスト養成講座（福井会場）基礎課程（職場の健康管理Ⅱ）。テーマ「メンタルトレーニングを活用し、心身の健康を創る」。
15.中級障害者スポーツ指導員講習会の講師	2014年1月	中級障害者スポーツ指導員講習会（福井）のスポーツ心理学領域。
16.日本体育協会上級指導員養成講習会の講師	2013年12月	平成25年度公益財団法人日本体育協会上級指導員養成講習会（福井）。テーマ「スポーツの心理」。
17.日本パラリンピック委員会の心理サポートスタッフ	2012年4月～2016年3月	（財）日本障害者スポーツ協会、日本パラリンピック委員会の障害者競技スポーツ医・科学・情報サポート推進事業。
18.福井県スポーツ医・科学委員会のスポーツ心理学部会委員	2012年4月～2014年3月	（財）福井県体育協会、福井県スポーツ医・科学委員会。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.健康とスポーツの心理学	共	2024年6月10日	嵯峨野書院	田中美吏（編著）・松本裕史（編著）・内田遼介 担当章 第3章　集中力と注意のコントロール 第4章　思考のコントロール 第5章　イメージと観察 第7章　プレッシャー下でのパフォーマンス 第8章　スランプとイップス 第12章　スポーツスキルの制御 第13章　スポーツスキルの学習
2.スポーツ心理学の挑戦―その広がりと深まり	共	2023年10月10日	大修館書店	担当章 「Ⅲ運動スキルの上達とトレーニング方法」の第3章「プレッシャー下のパフォーマンスに対する運動制御からの理解」
3.体育・スポーツ・健康概論	共	2023年9月13日	ナカニシヤ出版	担当章 第7章「体育心理学」
4.これからの体育・スポーツ心理学	共	2023年3月7日	講談社	担当章 第5章2節プレッシャー下でのパフォーマンス（pp.60-66）
5.新・スポーツ心理学	共	2015年9月30日	嵯峨野書院	伊達萬里子（編）・松山博明・田中美吏・三村　覚・高見和至 担当章 第2章スポーツスキルの制御と学習（pp.10-31） 第3章スポーツスキルの効果的な学習法（pp.32-57） 第9章スポーツにおける「あがり」（pp.129-149）
2 学位論文				
1.プレッシャーが運動スキルに及ぼす影響	単	2008年3月		博士論文 広島大学大学院生物圏科学研究科博士課程後期
2.一過性心理的ストレスがゴルフパッティングに及ぼす影響	単	2005年3月		修士論文 広島大学大学院生物圏科学研究科博士課程前期
3 学術論文				
1.Inhibition of ironic errors and facilitation of overcompensation errors under pressure: An investigation including perceived weakness	共	2024年	Journal of Sport and Exercise Psychology	Original research Nakamoto, H., Hashimoto, S., Kamei, M., Murata, M., Ikudome, S., Karakida, K., & Tanaka, Y.

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
2.女子野球選手のバットスイングと選球の意思決定：熟練度による差異とプレッシャー下での変化（査読付）	共	2022年	野球科学研究，6，17-29.	実践研究 三森裕希子・田中美吏・柄木田健太
3.カヌースプリントにおけるスタート時の反応時間―簡易自動発艇装置を用いたトレーニング効果の検証―（査読付）	共	2022年	健康・スポーツ科学，12，1-11.	原著 西分友貴子・田中美吏
4.ソフトボールにおけるイップスの多面的リスク評価尺度作成の試み（査読付）	共	2020年	体育学研究，65，929-945.	研究資料 稲田愛子・田中美吏・柄木田健太
5.カヌースプリントにおけるスタート時の自動発艇装置に対する反応時間の影響（査読付）	共	2019年	健康運動科学，9，13-20.	実践論文 西分友貴子・田中美吏
6.ソフトボールのイップス―選手の主観に関する実情調査―（査読付）	共	2019年	健康運動科学，9，1-11.	実践論文 稲田愛子・田中美吏
7.Movement mofidications related to psychological pressure in table tennis forehand task（査読付）	共	2019年	Perceptual and Motor Skills, 126, 143-156.	Original article Sekiya, H. & Tanaka, Y.
8.Psychological pressure distorts high jumpers' perception of the height of the bar（査読付）	共	2018年	Journal of Functional Morphology and Kinesiology, 3 (2), 29.	Communication Tanaka, Y., Sasaki, J., Karakida, K., Goto, T., Tanaka, Y. M., & Murayama, T.
9.心理的プレッシャー下でのダーツ課題におけるサイズ知覚とパフォーマンス結果（査読付）	共	2018年	体育学研究，64，441-455.	研究資料 田中美吏・柄木田健太・村山孝之・田中ゆふ・五藤佳奈
10.Increased corticospinal excitability and muscular activity in a lower limb reaction task under psychological pressure（査読付）	共	2017年	Journal of Functional Morphology and Kinesiology, 2 (2), 14.	Original article Tanaka, Y. & Shimo, T.
11.心理的プレッシャー下における不安定場での立位姿勢制御：下肢筋活動と足圧中心からの評価（査読付）	共	2016年	体育学研究，61，289-300.	研究資料 田中美吏・霜　辰徳・野坂祐介
12.Spinal reflexes	単	2015年	Motor Control,	Research note

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
during postural control under psychological pressure（査読付）			19, 242-249.	
13.Psychological pressure facilitates corticospinal excitability: Motor preparation processes and EMG activity in a choice reaction task（査読付）	共	2014年	International Journal of Sport and Exercise Psychology, 12, 287-301.	Original article Tanaka, Y., Funase, K., Sekiya, H., Sasaki, J., & Tanaka, Y. M.
14.大学生スポーツ選手の競技不調時の特徴（査読付）	共	2013年	近畿大学教養・外国語教育センター紀要（一般教養編）, 3, 73-81.	実践論文 田中ゆふ・藤井純一・田中美吏
15.投球動作前の確率情報を伴う球種予測に顕在的・潜在的知覚トレーニングが及ぼす影響（査読付）	共	2013年	スポーツ心理学研究, 40, 109-124.	原著論文 田中ゆふ・関矢寛史・田中美吏 平成26年度日本スポーツ心理学会最優秀論文賞受賞論文
16.Modulation of corticospinal motor tract excitability during a fine finger movement under psychological pressure（査読付）	共	2012年	International Journal of Sport and Health Science, 10, 39-49.	Original article Tanaka, Y., Funase, K., Sekiya, H., & Murayama, T.
17.プレッシャーが野球打者の予測スキルに及ぼす影響（査読付）	共	2012年	近畿大学教養・外国語センター紀要（一般教養編）, 2, 13-22.	原著論文 田中ゆふ・田中美吏・関矢寛史
18.Effects of explicit and implicit perceptual training on anticipation skills of baseball beginners（査読付）	共	2011年	Asian Journal of Exercise & Sport Science, 8, 1-15.	Original article Tanaka, Y.M., Sekiya, H., & Tanaka, Y.
19.The influence of monetary reward and punishment on psychological, physiolosical, behavioral, and performance aspects of a golf putting task（査読付）	共	2011年	Human Movement Science, 30, 1115-1128.	Original article Tanaka, Y. & Sekiya, H.
20.Multiple EMG activity and intracortical inhibition and	共	2011年	Journal of Motor Behavior, 43, 73-81.	Original article Tanaka, Y., Funase, K., Sekiya, H., Sasaki, J., & Takemoto, T.

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
facilitation during a fine finger movement under pressure（査読付）				
21.障害物回避の見積もり能力に関する発達障害児と健常児の比較（査読付）	共	2011年	理学療法科学, 26, 105-109.	原著論文 島谷康司・関矢寛史・田中美吏・長谷川正哉・沖　貞明
22.Factor analysis of the machanisms underlying ”choking under pressure” in sports（査読付）	共	2010年	Asian Journal of Exercise & Sport Science, 7, 55-60.	Original article Murayama, T., Sekiya, H., & Tanaka, Y.
23.The influence of audience and monetary reward on putting kinematics of expert and novice golfers（査読付）	共	2010年	Research Quarterly for Exercise and Sport, 81, 416-424.	Original article Tanaka, Y. & Sekiya, H.
24.The relationships between psychological/ physiological changes and behavioral/ performance changes in a golf putting task under pressure（査読付）	共	2010年	International Journal of Sport and Health Science, 8, 83-94.	Original article Tanaka, Y. & Sekiya, H. 2011年度日本体育学会奨励賞受賞論文
25.プレッシャーがボールバウンド課題に及ぼす影響（査読付）	共	2010年	人間工学, 46, 102-110.	原著論文 田中美吏・山本剛裕・関矢寛史
26.プレッシャーが全身協応運動に及ぼす影響（査読付）	共	2009年	スポーツ心理学研究, 36, 103-114.	原著論文 田中美吏・瓜本健助・村山孝之・関矢寛史 2010年度日本スポーツ心理学会優秀論文奨励賞受賞論文
27.Postural control of children with developmental disorders（査読付）	共	2009年	Journal of Physical Therapy Science. 21, 7-11.	Original article Shimatani, K., Sekiya, H., Tanaka, Y., Hasegawa, M. & Oki, S.
28.「あがり」の発現機序の質的研究（査読付）	共	2009年	体育学研究, 54, 263-277.	原著論文 村山孝之・田中美吏・関矢寛史 2010年度日本体育学会奨励賞受賞論文
29.スポーツにおける「あがり」の原因帰属と性格の関係（査読付）	共	2009年	人間科学研究（広島大学大学院総合科学研究科紀要Ⅰ）, 4, 1-9.	原著論文 木村展久・村山孝之・田中美吏・関矢寛史
30.くぐり動作における身体接触の実証的研究―発達障害児は物にぶつかることが多い―（査読付）	共	2008年	理学療法科学, 23, 721-725.	原著論文 島谷康司・田中美吏・金井秀作・大塚　彰・沖　貞明・関矢寛史
31.Do children with developmental disorders have low gross motor abilities?: A	共	2008年	Current Pediatric Research, 13, 9-12.	Original article Shimatani, K., Tanaka, Y., Hasegawa, M., Oki, S., & Sekiya, H.

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
comparison with normal children, using motor ability tests for young children（査読付）				
32.パートナーと運動課題を行うときの対人ストレスが運動スキルに及ぼす影響（査読付）	共	2007年	広島体育学研究，33，33-41.	原著論文 田中美吏・関矢寛史
33.ゴルフ競技におけるポジティブおよびネガティブ感情とパフォーマンスの関係（査読付）	共	2007年	人間科学研究（広島大学大学院総合科学研究科紀要Ⅰ），2，93-99.	原著論文 田中美吏・関矢寛史
34.時間切迫が運動スキルの遂行に及ぼす影響（査読付）	共	2007年	体育学研究，52，443-451.	原著論文 村山孝之・田中美吏・菅井若菜・関矢寛史
35.注意の変化およびプレッシャーが知覚運動スキルの流暢性に及ぼす影響（査読付）	共	2007年	人間科学研究（広島大学大学院総合科学研究科紀要Ⅰ），2，71-80.	原著論文 坂本佑次・田中美吏・関矢寛史
36.一過性心理的ストレスがゴルフパッティングに及ぼす影響（査読付）	共	2006年	スポーツ心理学研究，33（2），1-18.	原著論文 田中美吏・関矢寛史
その他				
1．学会ゲストスピーカー				
1.プレッシャー下のパフォーマンス―運動制御からの理解―	共	2024年6月	日本感情心理学会第32回大会（大阪体育大学、大阪）	シンポジウム1「アスリートの感情」のシンポジスト
2.競争下での模倣や意思決定から考えるMUSHIN	共	2023年9月	日本心理学会第87回大会@神戸国際会議場・神戸国際展示場（対面とオンラインの併用）	【日本認知科学科・日本心理学会連携企画シンポジウム】「『無心』の心理学５」のシンポジスト
3.プレッシャーとイップスの科学	共	2022年12月	日本野球科学研究会第9回大会（近畿大学、大阪）	シンポジウム①「心を科学する～野球心理学への招待、最高のパフォーマンス発揮への探求～」のシンポジスト
4.心理的ストレス下での認知と運動	共	2022年9月	日本体育・スポーツ・健康学会第72回大会（順天堂大学さくらキャンパス、千葉）	＜健康福祉研究部会【課題B】認知機能の維持・改善に運動・スポーツはいかに貢献するか＞ シンポジウムテーマ「運動から認知へ、認知から運動へ」のシンポジスト
5.身体化された無心と有心―模倣運動伝染との接点―	共	2020年9月	日本心理学会第85回大会（オンライン開催）	公募シンポジウム「『無心』の心理4（Psychology of ”MUSHIN” Ⅳ）」のシンポジスト
6.スポーツ心理学研究から提案するICTやAIの効能と弊害	共	2019年9月	日本心理学会第83回大会（立命館大学、大阪）	公募シンポジウム「『無心』の心理学2」のシンポジスト
7.Past and present research analyzing motor perfromance under pressure (in English)	共	2019年9月	日本体育学会第70回大会（慶應義塾大学、神奈川）	体育心理学専門領域ランチョンセミナーの話題提供者
8.プレッシャーとイッ	単	2018年12月	山梨体育・スポー	平成30年度第1回SSC特別講演

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
１．学会ゲストスピーカー				
プスに対する運動制御からの視座			ツ科学学会（山梨大学、山梨）	
9.プレッシャーとスポーツパフォーマンス―知覚運動制御研究からの視座―	共	2018年9月	日本心理学会第82回大会（仙台国際センター、宮城）	公募シンポジウム「『無心』の心理学」のシンポジスト
10.心理的プレッシャーとスポーツパフォーマンス―運動制御からの理解―	単	2015年8月	第66回日本体育学会（国士舘大学、東京）	体育心理学領域キーノートレクチャー
11.心理的プレッシャーに対する運動制御メカニズム	単	2013年10月	第30回情動と感情の研究会（同志社大学、京都）	話題提供者
12.心理的プレッシャー下における運動行動の運動学的・神経生理学的特徴	共	2010年9月	日本体育学会第61回大会（中京大学、愛知）	体育心理学専門領域シンポジウムのシンポジスト
13.心理的プレッシャー下における随意運動制御	単	2009年12月	2009年度関西体育心理例会（近畿大学、大阪）	話題提供者
２．学会発表				
1.映像選択による観察学習時の認知処理メカニズムの解明	共	2023年10月	日本スポーツ心理学会第50回大会（東京大学、東京）	ポスター発表 廣光佑哉・田中美吏・北島孟・石倉忠夫
2.ソフトボールの守備におけるプレッシャー下での思考―あがりが生じた後に着目して―	共	2023年10月	日本スポーツ心理学会第50回大会（東京大学、東京）	ポスター発表 細野桃子・田中美吏・三森裕希子
3.競争下での勝敗を左右するリスクテイク・回避の意思決定―叩いて被ってじゃんけんぽんを題材とした実験―	共	2023年9月	日本スポーツ心理学会第50回大会（東京大学、東京）	口頭発表 田中美吏・細野桃子・三森裕希子
4.競争下での意思決定や模倣―叩いて被ってじゃんけんぽん実験―	単	2023年8月	第31回運動学習研究会（筑波大学、茨城）	口頭発表
5.競争下でのペア運動におけるリスクテイク・回避の意思決定―意思決定と運動結果の模倣も含めたアプローチ―	共	2021年11月	日本スポーツ心理学会第48回大会（オンライン開催）	ポスター発表 田中美吏・柄木田健太・関矢寛史・佐々木丈予
6.大学生競泳選手の効果的なピリオダイゼーション―TDS尺度とコルチゾールの活用―	共	2021年11月	日本スポーツ心理学会第48回大会（オンライン開催）	ポスター発表 茶屋怜治・田中美吏・三森裕希子
7.女子野球選手の熟練度別のバットスイングと選球の特徴―プレッシャー下での変化の検討も含めて―	共	2021年11月	日本スポーツ心理学会第48回大会（オンライン開催）	ポスター発表 三森裕希子・田中美吏・柄木田健太
8.カヌースプリントにおけるスタート時の反応時間―簡易発艇	共	2021年11月	日本スポーツ心理学会第48回大会（オンライン開	ポスター発表 西分友貴子・田中美吏・三森裕希子

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
装置を用いたトレーニング効果の検証―			催）	
9.競争下でのリスクテイク・回避の意思決定と模倣運動伝染	単	2021年8月	日本運動学習研究会	口頭発表
10.カヌースプリントにおけるスタート時の自動発艇装置に対する反応時間の影響	共	2020年12月	日本スポーツ心理学会第47回大会（オンライン開催）	ポスター発表 西分友貴子・田中美吏
11.体操選手の競技レベルの規定要因―姿勢制御及び足・脳の優位性からの検討―	共	2019年11月16日	日本スポーツ心理学会第46回大会（筑波大学、茨城）	ポスター発表 夏目侑香・田中美吏
12.ソフトボールのイップスの評価尺度―作成に向けた構成概念の検討―	共	2019年11月16日	日本スポーツ心理学会第46回大会（筑波大学、茨城）	口頭発表 稲田愛子・田中美吏・柄木田健太
13.Functional role of envirnmental perception for motor performance under pressrue	共	2019年7月18日	15th European Congress of Sport & Exercise Psychology (Munster, Germany)	Poster presentation Tanaka, Y., Karakida, K., Inada, A., Tanaka, Y.M., and Murayama, T.
14.Motivational profiles for exercise in Japanese adults: a self-determination theory perspective	共	2019年5月	7th International Self-Determination Theory Conference (Netherland)	Oral presentation Hiroshi Matsumoto and Yoshifumi Tanaka
15.Focus group study of perceived barriers to and benefits of physical activity among sedentary mothers with young children in Japan	共	2018年11月16日	ISBM (International Society of Behavioral Medicine) Congress 2018 (Santiago, Chile)	Poster presentation Hiroshi Matsumoto, Yoshifumi Tanaka, and Tamao Yanai
16.ソフトボール選手のイップスの実態―KJ法による「きっかけ」「状況」「症状」の抽出―	共	2018年10月13日	日本スポーツ心理学会第45回大会（名古屋国際会議場、名古屋）	ポスター発表 稲田愛子・田中美吏・柄木田健太
17.プレッシャー下でのパフォーマンスに対する知覚の機能的役割	共	2018年10月13日	日本スポーツ心理学会第45回大会（名古屋国際会議場、名古屋）	口頭発表 田中美吏・柄木田健太・稲田愛子・田中ゆふ・村山孝之
18.体操選手の重心動揺―特性不安や競技レベルとの関連―	共	2018年10月12日	日本スポーツ心理学会第45回大会（名古屋国際会議場、名古屋）	ポスター発表 夏目侑香・五藤佳奈・田中美吏
19.大学生女子ソフトボール選手の投・送球イップスの実態	共	2018年8月24日	第69回日本体育学会（徳島大学、徳島）	ポスター発表 稲田愛子・田中美吏
20.Effects of pressure on gaze behaviors and spatial perception in golf putting	共	2018年7月2日	The 8th ASPASP (Asian-South Pacific Association of Sport	Poster presentation Takayuki Murayama, Yoshifumi Tanaka, Yufu M. Tanaka, and Kana Goto Excellent Poster Presentation Award受賞

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
tasks			Psychology) International Congress (Daugu, South Korea)	
21.Size perception and performance outcome in a dart-throwing task under psychological pressure	共	2018年6月23日	NASPSPA (North American Society for the Psychology of Sport and Physical Activity) 2018 Conference (Denver Colorado, USA)	Poster presentation Yoshifumi Tanaka, Kenta Karakida,Takayuki Murayama, Yufu M. Tanaka, and Kana Goto
22.ソフトボール選手のイップスについての実態調査	共	2017年12月16日	平成29年度第2回関西体育心理例会（大阪体育大学、大阪）	口頭発表 稲田愛子・田中美吏・柄木田健太
23.心理的プレッシャー下でのダーツ課題におけるサイズ知覚とパフォーマンス結果	共	2017年11月5日	日本スポーツ心理学会第44回大会（大阪商業大学、大阪）	ポスター発表 田中美吏・柄木田健太・村山孝之・田中ゆふ・五藤佳奈
24.投げの正確性―プレッシャー研究やイップス研究への援用―	単	2017年8月8日	第26回運動学習研究会（東京学芸大学、東京）	口頭発表
25.Cognitive and neural mechanisms for perception of biological motion eliminated most kinematic information of gymnastics skills	共	2017年7月13日	The 14th ISSP (International Society of Sport Psychology) World Congress of Sport Psychology (Sevilla, Spain)	Poster presentation Kana Goto and Yoshifumi Tanaka
26.Disadvantageous height perception by high jumpers before the run under psychological pressure	共	2017年7月10日	The 14th ISSP (International Society of Sport Psychology) World Congress of Sport Psychology (Sevilla, Spain)	Yoshifumi Tanaka, Joyo Sasaki, Kenta Karakida, Kana Goto, Yufu M. Tanaka, and Takayuki Murayama
27.Implicit ability of expert baseball batters for distinguishing subtle changes in pitchers' arm movements in computer animations	共	2017年7月10日	The 14th ISSP (International Society of Sport Psychology) World Congress of Sport Psychology (Sevilla, Spain)	Poster presentation Yufu M. Tanaka, Tomoyuki Matsuo, and Yoshifumi Tanaka
28.心理的プレッシャー下における力動的知覚	単	2016年9月9日	第25回運動学習研究会（大阪体育大学、大阪）	口頭発表
29.心理的プレッシャー下における姿勢制御機能―下肢筋活動と足圧中心からの評価―	共	2016年8月26日	日本体育学会第67回大会（大阪体育大学、大阪）	口頭発表 田中美吏・霜　辰徳

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
30.打撃に必要な瞬時予測能力は知覚トレーニングによって向上するのか？―意識・無意識に着目した学習効果の検討―	共	2015年12月12日	日本野球科学研究会2015（中京大学、愛知）	ポスター発表 田中ゆふ・関矢寛史・田中美吏
31.Increased corticospinal excitability and muscular activity in a lower limb reaction task under psychological pressure	共	2015年6月4日	NASPSPA (North American Society for the Psychology of Sport and Physical Activity) 2015 conference (Portland, OR, USA)	Poster presentation Yoshifumi Tanaka and Tatsunori Shimo
32.心理的プレッシャー下における運動制御機能－姿勢制御や対処法の研究－	単	2015年5月30日	平成27年度第1回関西体育心理例会（近畿大学、大阪）	口頭発表
33.心的動揺に対する姿勢制御機能	共	2015年3月2日	第23回運動学習研究会（琉球大学、沖縄）	口頭発表 田中美吏・霜　辰徳・野坂祐介・関屋昂樹・島谷康司
34.Mental skills training in out of sports: Stress management invention program with Japanese grade 3 ellementary school children	共	2014年8月10日	The 7th ASPASP (Asian-South Pacific Association of Sport Psychology) International Congress (Tokyo, Japan)	Oral presentation Tatsunori Shimo,Akio Umezawa, Yoshifumi Tanaka, and Kensuke Terai
35.心理的プレッシャー下における中枢及び末梢の運動制御機能―下肢による反応課題時の皮質脊髄路の興奮性と筋活動の増大―	共	2014年8月	日本体育学会第65回大会（岩手大学、岩手）	口頭発表 田中美吏・霜　辰徳
36.プロ野球選手のパフォーマンス好調時および不調時の特徴	共	2013年11月	日本スポーツ心理学会第40回大会（日本体育大学、東京）	ポスター発表 田中ゆふ・藤井純一・田中美吏
37.情動刺激に対する脊髄反射応答の興奮性変化―快・不快感情と心理的プレッシャーの影響―	単	2013年11月	日本スポーツ心理学会第40回大会（日本体育大学、東京）	口頭発表
38.Modulation of EMG activity and spinal reflex during a balancing task using lower limb under psychological pressure	単	2013年7月	PMC (Progress in Motor Control) IX (Montreal, Canada)	Poster presentation
39.走り高跳びにおけるバーの高さ判断に心理的プレッシャーが	共	2012年11月	日本スポーツ心理学会第39回大会（金沢星稜大学、	ポスター発表 田中美吏・佐々木丈予

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
及ぼす影響			石川）	
40.プロ野球選手のスランプに関する研究	共	2012年6月	平成24年度第1回関西体育心理例会（近畿大学、大阪）	口頭発表 田中ゆふ・藤井純一・田中美吏
41.脊髄反射運動制御に対する感情および心理的プレッシャーの影響	単	2012年6月	第21回日本運動学習研究会（大阪大学、大阪）	口頭発表
42.Effect of explicit and implicit perceptual training on anticipating pitch-type by novice baseball players.	共	2012年6月	NASPSPA (North American Society for the Psychology of Sport and Physical Activity) 2012 Conference (Hawaii, USA)	Poster presentation Yufu M. Tanaka, Hiroshi Sekiya, and Yoshifumi Tanaka
43.Effects of emotional stimuli and psychological pressure on spinal Hoffmann reflex amplitude	共	2012年6月	NASPSPA (North American Society for the Psychology of Sport and Physical Activity) 2012 Conference (Hawaii, USA)	Poster presentation Yoshifumi Tanaka, Atsushi Tanaka, and Yufu M. Tanaka
44.快-不快感情が脊髄反射回路と筋活動に及ぼす影響	単	2011年12月	平成23年度第2回関西体育心理例会（近畿大学、大阪）	口頭発表
45.男子大学バスケットボール部を対象とした大会直前におけるSMT講習の効果	単	2011年11月	第6回日本メンタルトレーニングフォーラム（メルパルク京都、京都）	ポスター発表
46.Effects of psychological pressure on motor cortex excitability and EMG activity in a choice reaction task	共	2011年9月	第34回日本神経科学大会（パシフィコ横浜、神奈川）	Poster presentation Yoshifumi Tanaka, Kozo Funase, Hiroshi Sekiya, Joyo Sasaki, and Yufu M. Tanaka
47.心理的プレッシャー下におけるゴルフパッティングの動作変化	単	2011年8月	第24回日本ゴルフ学会（大阪体育大学、大阪）	口頭発表
48.選択反応課題時の皮質運動野興奮性に対する心理的プレッシャーの影響	共	2010年11月	日本スポーツ心理学会第37回大会（福山大学、広島）	ポスター発表 田中美吏・船瀬広三・関矢寛史・佐々木丈予
49.プレッシャー下での随意運動課題における皮質脊髄路の興奮性変化	単	2010年5月	第19回日本運動学習研究会（大阪体育大学、大阪）	口頭発表
50.プレッシャー下における手指随意運動中の筋放電活動ならび	共	2009年11月	スポーツ心理学会第36回大会（首都大学東京、東京）	口頭発表 田中美吏・船瀬広三・関矢寛史・佐々木丈予

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
に運動野内抑制性・促通性回路				
51.The influence of pressure on a table tennis forehand task	共	2009年6月	The 12th ISSP (International Society of Sport Psychology) World Congress of Sport Psychology (Marrakesh, Morocco)	Poster preseatation Hiroshi Sekiya and Yoshifumi Tanaka
52.Modulation of corticospinal excitability during fine finger movement under pressure	単	2009年6月	The 12th ISSP (International Society of Sport Psychology) World Congress of Sport Psychology (Marrakesh, Morocco)	Poster presenttion Yoshifumi Tanaka, Kozo Funase, Hiroshi Sekiya, and Takayuki Murayama
53.プレッシャー下における皮質脊髄路の興奮性変化	共	2008年11月	スポーツ心理学会第35回大会（中京大学、愛知）	口頭発表 田中美吏・船瀬広三・関矢寛史・村山孝之
54.プレッシャーが運動スキルに及ぼす影響	単	2008年6月	第18回日本運動学習研究会（首都大学東京、東京）	口頭発表
55.Qualitative research on the mechanism of choking under pressure	共	2007年12月	Asia-Pacific Conference on Exercise and Sports Sciences 2007 (Hiroshima, Japan)	Poster presantation Takayuki Murayama, Yoshifumi Tanaka, and Hiroshi Sekiya
56.The relationships among attentional shifts, kinematics and performance under pressure	共	2007年12月	Asia-Pacific Conference on Exercise and Sports Sciences 2007 (Hiroshima, Japan)	Poster presantation Yoshifumi Tanaka and Hiroshi Sekiya
57.プレッシャーが熟練ゴルファーのパッティングに及ぼす影響	共	2007年11月	日本スポーツ心理学会第34回大会（東京工業大学、東京）	ポスター発表 田中美吏・関矢寛史
58.プレッシャー下における運動スキルの心理・生理・行動・パフォーマンスの変化の関係性	共	2007年10月	2007年度広島体育学研究発表例会（広島大学、広島）	口頭発表 田中美吏・関矢寛史
59.時間切迫が運動スキルの遂行に及ぼす影響	共	2007年9月	日本体育学会第58回大会（神戸大学、兵庫）	ポスター発表 村山孝之・田中美吏・菅井若菜・関矢寛史
60.プレッシャーがゴルフパッティング課題に及ぼす影響	共	2007年9月	日本体育学会第58回大会（神戸大学、兵庫）	ポスター発表 関矢寛史・田中美吏
61.プレッシャー下における心理・生理・行動・パフォーマンスの変化の関係性	単	2007年6月	第17回日本運動学習研究会（慶応大学、神奈川）	口頭発表
62.Qualitative research on the	共	2007年6月	NASPSPA (North American Society	Poster presantation Takayuki Murayama, Yoshifumi Tanaka, and Hiroshi Sekiya

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
mechanism of choking under pressure			for the Psychology of Sport and Physical Activity) 2007 Conference (San Diego, USA)	
63.The relationships among attentional focuses, kinematics and performance of a golf putting task under pressure	共	2007年6月	NASPSPA (North American Society for the Psychology of Sport and Physical Activity) 2007 Conference (San Diego, USA)	Poster presantation Yoshifumi Tanaka and Hiroshi Sekiya
64.プレッシャーによる注意の変化が運動スキルに及ぼす影響	共	2006年12月	スポーツ心理学会第33回大会（沖縄県男女共同参画センターていると、沖縄）	口頭発表 田中美吏・関矢寛史
65.プレッシャーによる注意の変化が運動スキルに及ぼす影響	単	2006年6月	第16回日本運動学習研究会（筑波大学、茨城）	口頭発表
66.Movement kinematics of golf putting under performance pressure	共	2006年6月	NASPSPA (North American Society for the Psychology of Sport and Physical Activity) 2006 Conference (Denver Colorado, USA)	Poster presantation Yoshifumi Tanaka and Hiroshi Sekiya
67.パフォーマンスプレッシャーがゴルフパッティング動作に及ぼす影響	共	2005年10月	2005年度広島体育学会研究発表例会（広島大学、広島）	口頭発表 田中美吏・関矢寛史
68.‘あがり’がKinematic・Kinetic変数に及ぼす影響	共	2005年9月	日本スポーツ心理学会第32回大会（早稲田大学、東京）	ポスター発表 田中美吏・関矢寛史
69.‘あがり’がKinematic・Kinetic変数に及ぼす影響	共	2005年8月	第15回日本運動学習研究会（福山平成大学、広島）	口頭発表 田中美吏・関矢寛史
70.心理的ストレスがゴルフパッティングに及ぼす影響	共	2004年12月	日本スポーツ心理学会第31回大会（大阪市中央体育館、大阪）	ポスター発表 田中美吏・関矢寛史
71.心理的ストレスがゴルフパッティングに及ぼす影響	共	2004年8月	第14回日本運動学習研究会（志賀高原一ノ瀬スカイランドホテル、長野）	ポスター発表 田中美吏・関矢寛史
72.ゴルフ競技におけるPositive Affect及びNegative Affectとパフォーマンスの関係	共	2003年11月	日本スポーツ心理学会第30回記念大会（筑波大学、茨城）	ポスター発表 田中美吏・関矢寛史
３．総説				

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
３．総説				
1.スポーツにおけるイップスのアセスメント・症状・対処（査読付）	共	2022年	スポーツ心理学研究，49，5-19.	柄木田健太・田中美吏・稲田愛子
2.イップスに関するエビデンスベースの知識	単	2019年	メンタルトレーニング・ジャーナル，12，33-36.	査読なし
3.運動パフォーマンスへの皮肉過程理論の援用―皮肉エラーと過補償エラーの実証とメカニズム―（査読付）	共	2019年	スポーツ心理学研究，46，27-39.	田中美吏・柄木田健太
4.プレッシャー下での注意・知覚とパフォーマンス	単	2018年	体育の科学，68（5），367-372.	査読なし
5.バランスへの心理学的アプローチ	単	2017年	体育の科学，67（6），415-421.	査読なし
6.スポーツ選手の「あがり」の対処法に関する実践的研究―パフォーマンスルーティンに着目して―（査読付）	共	2017年	健康運動科学，7，9-14.	柄木田健太・田中美吏
7.心理的プレッシャー下におけるゴルフパッティング：症状と対処に関する実験研究（査読付）	単	2014年	体育学研究，59，1-15.	
8.”あがり”とファインモーターコントロール	共	2011年	バイオメカニクス研究，15，167-173.	吉江路子・田中美吏・村山孝之・工藤和俊・関矢寛史
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.エンデュランストレーニングの科学―持久力向上のための理論と実践―	共	2015年8月2日	有限会社ナップ（NAP Limited）	翻訳書 第20章持久力の心理学、pp.177-187 第22章健康のための持久力トレーニング、pp.201-208を担当 長谷川　博（監訳） 長谷川　博・中村大輔・安松幹展・桜井智野風・久保啓太郎・禰屋光男・伊藤静夫・相澤勝治・鬼塚純玲・田中美吏・安藤創一・加藤晴康（訳者一覧）
2.リカバリーの科学―スポーツパフォーマンス向上のための最新情報―	共	2014年9月15日	有限会社ナップ（NAP Limited）	翻訳書 第5章リカバリーの心理学、pp.49-58を担当 長谷川　博・山本利春（監訳） 長谷川　博・山本利春・桜井智野風・中村大輔・田中美吏・山口太一・安松幹展・鬼塚純玲・依田珠江・笠原政志・太田千尋（訳者一覧）
3.福井県スポーツ選手の競技不安について	共	2014年	平成25年度福井県スポーツ選手の健康・心理・栄養面における実態について（報告）	報告書 田中美吏・勝木豊成
4.脊髄反射運動制御機構に対する感情および注意の影響	単	2013年	財）ミズノスポーツ振興財団2012年度スポーツ科学等研究助成報告書.	研究成果報告書 公開外部URL http://www.mizuno.co.jp/zaidan/ikagaku/josei_2010.aspx
5.福井県スポーツ選手の競技不安について	共	2013年	平成24年度福井県スポーツ選手の健	報告書 勝木豊成・田中美吏

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
			康・心理・栄養面における実態について（報告），15-29.	
6.スポーツユニットにおける教育の現状と課題	単	2012年	人間環境科学（帝塚山大学人間環境科学研究所紀要），19，103-115.	報告書
7.プレッシャー下における運動制御の神経生理学的検討	単	2011年	（財）ミズノスポーツ振興財団2009年度スポーツ科学等研究助成報告書	研究成果報告書 公開外部URL http://www.mizuno.co.jp/zaidan/ikagaku/josei_2000.aspx
8.心理的プレッシャーによってなぜ運動パフォーマンスが低下するか？―認知的側面と行動的側面の影響―	共	2008年	ヤマハ発動機スポーツ振興財団（ＹＭＦＳ）チャレンジ研究助成報告書	研究成果報告書 田中美吏・三木ゆふ・村山孝之・三宅浩亮
６．研究費の取得状況				
1.プレッシャー下での運動行動システム―個人内から個人間への理論の拡張―	共	2024年4月～現在	科学研究費補助金・基盤研究（C）	研究代表者 研究分担者：升本絢也氏（広島文化学園大学） 直接経費350万円、間接経費105万円
2.プレッシャー下でのパフォーマンス―意思決定を含めた包括的理解―	共	2020年4月～現在	科学研究費補助金・基盤研究（C）	研究代表者 研究分担者：佐々木丈予氏（東京成徳大学） 直接経費330万円、間接経費99万円
3.無心の認知科学	共	2020年4月～2023年3月	科学研究費補助金・挑戦的萌芽研究（萌芽）	研究分担者 研究代表者：野村理朗氏（京都大学） 直接経費80万円、間接経費24万円
4.心理的プレッシャー下における身体運動―力動的知覚とのインタラクション―	共	2016年4月～2020年3月	科学研究費補助金・基盤研究（C）	研究代表者 連携研究者：村山孝之氏（金沢大学）・田中ゆふ氏（近畿大学）・五藤佳奈氏（武庫川女子大学） 直接経費370万円、間接経費111万円
5.「あがり」の対処に関する認知的・運動学的・神経生理学的アプローチ	単	2014年3月～2015年3月	平成26年度福井大学教育地域科学部学部長裁量経費（重点研究経費）	研究代表者 10万円
6.心的動揺に対する運動制御機構―姿勢制御機能と皮質脊髄路の興奮性の精緻な解明―	単	2013年4月～2016年3月	科学研究費補助金・若手研究（B）	研究代表者 直接経費340万円、間接経費102万円
7.瞬発的運動能力に対する大脳一次運動野の興奮性調節の効果	単	2013年4月～2014年3月	平成25年度福井大学教育地域科学部学部長裁量経費（重点研究経費）	研究代表者 23万円
8.心的動揺に対する運動制御の中枢及び末梢神経機構	単	2012年4月～2013年3月	平成24年度福井大学研究育成経費（若手研究者による今後の進展が期待できる研究の支援）	研究代表者 40万円
9.脊髄反射運動制御機構に対する感情および注意の影響	単	2012年4月～2013年3月	財団法人ミズノスポーツ振興会2012年度スポーツ科学等研究助成	研究代表者 助成金額100万円

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
10.心的動揺に対する運動制御機構―脊髄反射回路の解明と非侵襲的脳刺激の導入―	単	2011年6月～2013年3月	科学研究費補助金・若手研究（B）	研究代表者 直接経費350万円、間接経費105万円
11.視覚運動応答に対するインセンティブの影響の実験的研究	単	2011年4月～2012年3月	平成23年度帝塚山学園学術教育研究助成（第1種C）	研究代表者 30万円
12.心理的プレッシャー下における随意運動制御機構の解明	共	2010年4月～2011年3月	平成22年度帝塚山大学学長裁量配分奨励研究費	研究代表者 共同研究者：重本和泰氏（帝塚山大学） 50万円
13.労働におけるインセンティブの神経経済学による分析	共	2009年6月～2010年3月	平成21年度帝塚山大学経済・経営研究所研究費	研究代表者 共同研究者：竹本　亨氏（帝塚山大学） 18万円
14.プレッシャー下における運動制御の神経生理学的検討	単	2009年4月～2010年3月	財団法人ミズノスポーツ振興会2009年度スポーツ科学等研究助成	研究代表者 助成金額100万円
15.心理的プレッシャーによってなぜ運動パフォーマンスが低下するか？―認知的側面と行動的側面の影響―	共	2007年4月～2008年3月	ヤマハ発動機スポーツ振興財団（ＹＭＦＳ）チャレンジ研究助成	田中美吏（研究代表者）・三木ゆふ・村山孝之・三宅浩亮 助成金額110万円

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2021年4月～現在	日本体育・スポーツ・健康学会体育心理学専門領域理事会の理事
2.2020年4月～現在	日本スポーツ心理学会の理事
3.2017年4月～2021年3月	日本体育・スポーツ・健康学会体育心理学専門領域理事会の監事
4.2014年	日本スポーツ心理学会最優秀論文賞（第3著者として）
5.2011年	日本体育学会奨励賞（筆頭著者として）
6.2010年	日本スポーツ心理学会優秀論文奨励賞（筆頭著者として）
7.2010年	日本体育学会奨励賞（第2著者として）